

# カトリック六甲教会 教会報

2016

2

No.530

## 四旬節と灰の水曜日

宣教部 荏原

今年もいよいよ四旬節が始まります。四旬節はカトリック教会の最も重要な祝日である復活祭に先立つ約40日（日曜日は計算に入れない）の期間で、復活祭の40日前という意味から、ラテン語の「40日目」(quadragesima dies)がその語源です。40という数はユダヤの民が荒野をさまよった約40年という期間や、イエス様が公生活の前に行われた40日間の断食に因む、と言われていました。「灰の水曜日」に始まり、聖木曜日のミサの前に終わります。



四旬節のはじまりに当たる灰の水曜日、信徒は教会で、前年の「枝の主日」の棕櫚を燃やした灰を額に受けますが、灰をかぶる（そして粗布をまとう）、という習慣は旧約の時代、悔い改めの表現でした（ヨナ3.5～9、エレミア6.26, 25.34）。紀元300年頃になると、この習慣は各地の教会で、棄教、異端、殺人、姦淫など、教会や世俗の共同体に対する大罪を犯した人への「期限付き破門」の儀式として広まります。7世紀頃にはこの破門の儀式が四旬節の始めに行われるようになり、大罪を犯した人は聖木曜日に司教様から赦しを受けるまで（場合によっては何年もの間）、灰をかぶり粗布をまとして過ごしました。中世になると、悔い改めの対象はそれまでの公的な罪から個人的な罪へと変わり、その結果、灰の水曜日の儀式はもっと穏やかな形で、小教区のすべての成人の信徒に適用されるようになります。灰の水曜日の典礼が今日のような形になったのは11世紀と言われていました。

四旬節は灰の式や、大斎、小斎に代表されるように「償い」の期間ですが、同時に「洗礼の記念、または準備」の期間でもあります（第2バチカン公会議『典礼憲章』109）。洗礼志願者が信仰を深め、すでに洗礼を受けた信徒が自らの洗礼の約束を思い起こし、心を新たに作る時期でもあるのです。そのため灰の式の時、伝統的には「あなたはちりであり、ちりに帰って行くのです。」（創世記3.19）」という典礼文が唱えられてきましたが、最近では「回心して福音を信じなさい。」という言葉が用いられます。

聖ベネディクトはその「戒律」の中の四旬節についての章（第49章）で、「聖なる復活祭を全く霊的な喜びのうちに迎えるため」、四旬節には普段よりも熱心に信心業に励むよう勧めています。それは「聖霊の喜びのうちに」行われなければならない、とも述べています。わたしたちも大きな喜びの日である復活祭の前のこの時期を、すでに喜びの先取りの時期として過ごしたいものです。

2月7日(日) までに昨年の枝をお持ち下さい(枝を入れる箱を聖堂入口に設置しております)。



## ナルドの花たより

現代社会で、ゆるしは非常にまれになり、いつくしみがかつてなく重要になっています。

In today's society, in which forgiveness is so rare, mercy is ever more important.

(2016/1/22)

福音は、私たちが貧しい人、見捨てられた人の「隣人」となり、彼らに具体的な希望を与えられるよう招いています。

The Gospel calls us to be close to the poor and forgotten, and to give them real hope.

(2016/1/19)

孤独と無関心の砂漠の中であって、あらゆるキリスト教共同体はいつくしみと愛のオアシスになるべきです。

Every Christian community should be an oasis of charity and warmth in the midst of a desert of solitude and indifference.

(2016/1/15)

主に信頼をおけば、道で出会うすべての障壁を乗り越えられます。

When we entrust ourselves to the Lord, we can overcome all obstacles that we encounter on the way.

(2016/1/12)

世が快適さと利己心の中でうたた寝している時、私たちキリスト者の使命は、彼らが目覚めるよう助けることです。

When the world slumbers in comfort and selfishness, our Christian mission is to help it rouse from sleep.

(2016/1/8)

いつくしみは、ナザレのイエスのうちに見えるもの、生きたものとなりました (『父のいつくしみのみ顔』1)。

In Jesus of Nazareth, mercy has appeared and lives (MV 1).

(2016/1/5)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート (邦訳) より



## 新年ミサ



早いもので新年を迎えてから数日が経ちましたが皆さんお元気でしょうか。

今回の年末年始を迎える時に教会内の動きで少し変更になった事が有りましたが皆さんお気づきでしょうか？

今までは、新年を迎えてから始まっていたミサが、年末の23時からのミサに変更になった事です。また、今年から新年を迎えると同時に教会の鐘ベルが鳴り響き神戸の新年を迎えるひとつの風物詩の歴史が始まった事も。

新年の幕開けを宣言する鐘ベルの音と共にアルフレド神父様と夜ミサに参加された

方と新年を御祝いする乾杯で今年は始まりました。 (安田)

## 新成人祝福式 (2016/1/10)

ご成人おめでとうございます！成人式を迎えられた皆様をご紹介します。

ドメニコ・サヴィオ 須藤	アンドレア 岡村
パウロ 西芝	マリア 藤原
アウグスチヌス 近藤	幼いイエズスのテレジア 後藤
ラファエル 佐藤	エミリ マリア 福田
アシジのフランシスコ 大迫	マリ ユヨチジャン
フランシスコ 吉村	マリア・テレジア 高橋
使徒ヨハネ 松本	鞍谷
ミカエル 小林	市田
パウロ三木 内田	三宅
フランシスコ アシジ 清水	

計 19 名 (順不同)

日々の歩みを大切に。皆様のご活躍を期待しております。

### 《 成人式を終えて 》

先日六甲教会でミサに預かり、成人式を迎えました。こじんまりとしていながらもたくさんの方々に祝福していただいた成人式は、私にとって一生の思い出に残るものとなりました。関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

私は中学三年生の時に受洗致しました。それ以来、六甲教会でいろいろな経験をさせてもらい、いつしか私にとっても居場所の一つになっていました。それは東京での学生生活をしていても決して忘れることはありません。

成人になるにあたり、両親をはじめ、家族のみんな、そして教会の皆さんには感謝してもしきれません。これからもどうか見守ってください。ありがとうございました。(須藤)



\*\*\*\*\*



先日は新年会と同時に新成人のお祝いをしていただき、ありがとうございました。小さい頃からお世話になっていた教会で皆様から温かいお祝いの言葉をいただけてとても幸せなひとときでした。一緒に教会学校に行っていた友達やお世話になっていたリーダー達にも久しぶりに会えて嬉しかったです。

ミサにあずかる前は、自分が教会で新成人のお祝いをしていただくときにはもっとしっかりした人になっているはずだったのにそれ程変わっていないな、と考えていたのですが、

神父様のお説教やいろんな方々のお話を聞いているうちに、新成人になったからいきなりしっかり者になるなんて

ことはなくて、この日を境に大人としての自覚を持って受ける側から与える側へ少しずつ変わっていけば良いのだと、気づくことができました。

まだまだ未熟者ですが素敵な大人になれるように日々努力していこうと思います。これからもよろしくお願ひ致します。(高橋)

## 新年会 (1月10日)

1月10日、教会新年会では新受洗者としてご紹介を頂き、ありがとうございました。受洗後約10カ月を経た今は、心のありようや方向が定まり、そのことで、以前よりも心に安定・安心と落ち着きが得られたと思います。

パーティーでは所属地区が当番でしたので、先輩の皆さんのご指導のもと、楽しく準備をさせていただきました。緊張のあまり(?)、折角のお料理や魅力的なお菓子も、戴くことができませんでしたが、全てお味見しましたと仰る強者の先輩に、来年は倣いたいと思います。(大上)



## 六甲youth会

六甲教会には高校卒業～30才までの若者が約130名も在籍しています。しかし、その多くが大学で神戸を離れていたり、仕事が忙しかったりと、なかなか教会との関わりを持てずにいます。

日々忙しくてなんとなく教会から離れている仲間と繋がりを持ちたいと思い若者の集まりを企画しています。

昼ごろから集まり、分かち合いとアルフレッド神父様にごミサをして頂いたあと、ご飯を食べて楽しい時間を過ごしています。

若者が気軽に集まり、日々の生活の中での想いを分かち合い、教会と繋がれる場として今後も活動を広げたいです。

次回 日時:3/6(日) 15:00～ 場所:イグナチオホール

※新年会で広報した日程より変更がございます。お気をつけください。

次回、新成人の歓迎会も行いたいと思います。新成人の方は奮ってご参加ください。是非知り合いの若者にもお声掛けください。出席のご連絡 : [youth.rokko@gmail.com](mailto:youth.rokko@gmail.com) (企画チーム)

### 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

#### 📧 評議会

2月13日(土) 小教区拡大評議会 10:00

#### 📧 社会活動部

2月5日(金) 連絡会 10時ミサ後

#### 📧 地区会

2月7日(日) 地区役員会 12:30

#### 📧 典礼部

2月20日(土) 部会 10:00

#### 📧 三日月会

2月15日(月) 14:00 ミサと懇親会

#### 📧 施設管理部

2月28日(日) 部会 13:00

📧 広報部 2月28日(日) 教会報3月号発行

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

2月 3日(水) 10時 手芸の集い(第1、2会議室) どなたでも参加できます。

2月13日(土) 10時 炊き出し(イグナチオホール、お台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。

2月21日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール) ボランティアグループ出店

2月22日(月) 9時30分 ともしび会 ケーキ作り(イグナチオホールお台所) 施設の子どもたちに



## みんなの広場

### 「帰り道」

毎日の通勤電車の中、さまざまなことが起こる。

12月は忘年会シーズン。遅い時間帯の電車には酔客の姿が自ずと多くなる。昨年12月、私自身も忘年会の帰り、終電間際の車中のことだ。泥酔状態の男性がすり革にぶらさがるようにして立っていた。時々すり革から手が離れ、体がかくっと前に倒れこむほどの状態だった。そのうち突然かがみこみ嘔吐した。付近にいた乗客は皆、くもの子を散らすように席を立ち、その男性一人が取り残された。私を含め遠くにいる乗客は様子をうかがい見るだけ。

そんな中、少し離れたところに立っていた若い女性が屈みこんだままの男性にさっと走りより、「大丈夫ですか?」と言って、ティッシュを渡した。

お年寄りや妊産婦の方に席を譲ることは誰にでもあるだろう。隣の具合の悪そうな方を気遣うことも誰にでもあるだろう。ただあの場合、状況は少し違った。

何もそこまで吞まなくても……。車掌が気付いてどうにかするはず。男性はまたもどすかもしれない。そばにいると危険だ。声をかけたら最後、次の駅で一緒に降りてあげるなんてことに……。もうこんな遅い時間だ。とにかく巻き込まれては大変。

あきらかに親切にした人の方が厄介な状況に陥る可能性があった。遠巻きに無関心を装っていた全員がそう思っていたはずだ。私がそうだったように。

正直なところ、私は驚いた。そのあまりに自然な女性の行動に。ああなんて優しい人なのだろう。感動すら覚えた。

「自分を犠牲にし、助けを必要としている人の隣人になる。」

日常のこんな些細なことでも、私は困っている人の真の隣人になることができない。次に同じようなことが起こったら、私はあの女性のように振る舞えるだろうか? 今と同じようにただ見ているだけではないだろうか?

複雑な思いの暮れの帰り道だった。

(フランチェスカ KT)

## 《ローマ法王庁 高山右近に「福者」の称号》

キリスト教を信仰したため国外追放され、マニラで生涯を閉じたキリシタン大名高山右近が、ローマ法王庁から敬けんな信仰を貫いた人を示す「福者」という称号を与えられることになりました。大阪で生まれた高山右近は父の影響で洗礼を受け、織田信長や豊臣秀吉に仕えましたが、キリスト教信仰のため領地や地位を奪われ、その後、徳川幕府から国外追放され、1615年にマニラで病死して63年の生涯を閉じました。

日本のカトリックの団体はローマ法王庁に対して、高山右近は大名の地位を捨てて信仰に身をささげた殉教者だとして、カトリックで亡くなった信者に贈られる最高位の「聖人」に次ぐ「福者」に列せられるよう要望していました。没後400年の去年6月にはローマ法王庁の神父が生誕の地の大阪を視察。そしてローマ法王庁は22日、高山右近に福者の称号を与えることを発表しました。

称号を贈る「列福式」の日程や場所は、日本カトリック司教協議会とローマ法王庁が相談して決めることにしています。  
(1月23日 7時01分 NHK ニュースウェブより)

\*\*\*\*\*

### ～広報部からのお願い～

#### ＜みんなの広場＞への寄稿について

皆様からのご寄稿によって運営させて頂いている＜みんなの広場＞です。いつもご協力ありがとうございます。



信仰メッセージに限りませんが、共同体の分かち合いのひとつの場所として成立すればと望んでおります。日々の喜び・悲しみ・感謝、暮らしの中での気付き等、数行でけっこうです。原稿をお待ちしています。お気軽にご寄稿ください。

今まで、洗礼名のみで掲載させて頂いておりますが、2016年4月からは洗礼名とお名前での掲載とさせていただきます。

※毎月15日締め切りです。

※基本ご寄稿頂いた月に掲載する予定にしておりますが、紙面・編集の都合により、その月に掲載できない場合がございます。ご了承ください。

※後日広報部からご連絡させて頂く必要がある時のため、提出原稿には必ず氏名・連絡先をご記入ください。

教会報3月号の発行は、2月28日(日)です。 原稿は2月14日(日)までに教会受付へご提出ください。FAX及びメールでも受付いたします。 (広報部) <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
	〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発 行 責 任 者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部